

保育・子育て支援等福祉従事者等へのPCR検査拡充、および 新型コロナワクチン3回目優先接種を求める提言

新型コロナウイルスは変異を続けながら、感染拡大の波が何度も押し寄せ、社会は疲弊し、とりわけ福祉現場では、困難な状況が続いています。現在蔓延しているオミクロン株は、これまで比較的感染しにくい、症状も軽度とされていた若い世代を中心に強い感染力でかつてない感染者数を出しています。

政府および横浜市においては、感染防止策をマスクや消毒といった基本的な対策とワクチンの追加接種を軸に、経済を回し、人流の抑制は最小限に止めようとする方向が示されています。

しかし、若い世代の感染者は増加を続け、横浜市の保育所の休園は1月31日時点で延481園、2月1日時点での学級閉鎖は335学級にのぼり、全国的にも突出した数字となっています。感染者数の増加により、保健所機能がひっ迫した結果、感染者の行動調査までも、保育所へ任される事態になりました。感染による人員不足に加え、日々の感染予防対策や拡大する業務に追われ、保育現場は大変混乱しています。

また、オミクロン株の特性を踏まえ、エッセンシャルワーカーが濃厚接触者となった場合の待機期間も短縮されました。しかし、一方では、感染した可能性のある人がPCR検査を希望してもなかなか受けられない事態となっています。市長が公約として掲げた「いつでもどこでもPCR検査」には程遠い状況です。

2月1日からは、PCR検査や抗原定量検査よりも精度が劣ると言われていた抗原検査キットによりセルフチェックを行い陰性が確認された場合に待機期間を短縮できる旨周知されたところですが、出勤停止の解除には事業者としての責任が生じます。より精度の高い検査として、自主的にPCR検査を実施する場合も、キットの入手が困難で検査結果の判明にも時間を要するなど、安全確保と社会機能の維持の両立に苦慮されています。

実効性に疑問のある2歳児へのマスク着用の推奨などの対策が求められる一方で、有効な対策として掲げられているワクチン追加接種については、保育士等は優先的な接種対象者に含まれていません。

あらためて、PCR検査体制のさらなる拡大・拡充と、保育・子育て支援等福祉従事者等へのワクチン優先接種を速やかにすすめることを求めます。

【提案事項】

1. 保育・子育て支援事業等において、事業所が必要と判断した場合に速やかに制限なくPCR検査が受けられる体制を整備するなど、PCR検査等体制を拡大・拡充すること。
2. 保育・子育て支援事業従事者、障害児サービス事業従事者、学校関係者、児童福祉施設従事者といったエッセンシャルワーカーのワクチン3回目接種を優先的にすすめること。

生活クラブ運動グループ・青葉福祉ユニット
神奈川ネットワーク運動・青葉
神奈川ネットワーク運動・つづき
神奈川ネットワーク運動・いずみ準備会
NPO法人ピッピ・親子サポートネット
ワーカーズ・コレクティブ La casa
ワーカーズ・コレクティブ ピッピふあむ
ワーカーズ・コレクティブ Socio
特定非営利活動法人移動サービスアクセス

横浜市青葉区市ヶ尾町1151-1-203 <net-aoba@nifty.com>